



ご来園の皆様の感染症予防のために

- ◆ ご来園前に、検温等を行ってください。
- ◆ ご入園の際は、体温確認させていただきます。
- ◆ 園内では、マスク等を着用し、人との距離の確保をお願いします。
※ 人との距離を十分に取ったうえで、適宜マスクを外すなどの休憩をとり熱中症の予防を心がけてください。
- ◆ 未来くん広場(遊具・きのこ文庫)を閉鎖、観覧温室内の昼夜逆転室を閉室しています。
- ◆ 水琴窟の使用を禁止しています。

ご理解ご協力いただきますよう、よろしくお願ひいたします。

※ 講演会・講習会等を再開しましたが、定員30名以内ですのでご理解ください。

第29回 食虫植物展

○日時：7月23日(木・祝)～8月10日(月・祝)
○場所：観覧温室特別展示室
○内容：ウツボカズラ、サラセニアなど100種展示。
○販売：7/23の13:00からと、7/24～26

◆7/26(日)「ハエトリソウについて」講演会

植物園会館2階研修室 13:30～15:00

(当日会場受付 13:00～)

講師：大谷博行氏

定員：先着30名

参加費：無料(別途入園料が必要)

第4回 帰化植物展

○日時：8月7日(金)～8月16日(日)
○場所：植物園会館1階展示室
○テーマ：「侵略的外来植物」
○内容：帰化植物の写真、解説パネル及び切花等の展示。

◆8/9(日)帰化植物展関連観察会

植物園会館2階研修室 13:30～15:00

(当日会場受付 13:00～)

内容：「帰化植物を観察しよう」

帰化植物についての説明及び生育地での観察。

アートボトル講習会(5) 募集中!!

8/13(木) 経験者の部 10:00～12:00
初心者の部 13:30～15:30

★山野草アートボトル同好会が作り方を指導 ★定員：各10名

★参加費：3,000円(別途、入園料が必要)

★事前申込：往復ハガキに講習会名、受講希望の回・部、住所、氏名、電話番号を明記 ★切：8/3(月) ★会場：植物園会館2階研修室

「土曜ミニミニガイド」 技術課職員が植物解説!

毎週土曜日は・・・

植物園会館前集合：午後1時スタート!(30分程度)

スマホdeガイド

QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定!

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成! ‘おすすめ樹木めぐり’ ‘おすすめエリアガイド’などをスマホで確認し、植物観察!

「副園長のほっこりガイド」

7月26日(日) 何処を歩くかはお楽しみ!

植物園会館前集合：午後2時スタート!(30分程度)



「植物園ガイド」が植物案内!

～見どころ案内・魅力解説・楽しさ倍増!～

- ① 7名以上のグループや団体で来園される方を対象
- ② 申込は希望日の10日前までに。(要相談)
- ③ ガイドは当面30分程度。(無料)

* 申込先：京都府立植物園 TEL 075-701-0141

植物園芸相談

■ 毎週 日曜日 午前9時～正午、午後1時～午後4時

■ 電話075-701-0141で

※年間パスポート好評発売中

・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです!

大人1000円 高校生750円

・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。

※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP!



今週の「探して！」
2020. 7. 24
11号

⑫ ディモルフオルキス・ロウイ
ラン科。カリマンタン(ボルネオ)島北東部の標高1,000m以下で湿度の高い熱帯林に自生。属名のディモルフオルキスは、ギリシャ語で「2つの形態のラン」という意味。一つの花茎に形態の異なる花が咲くランは、本属の2種だけ。

⑪ レンゲショウマ
キンポウゲ科。本州の主に太平洋側の暖温帯地域に分布する日本固有の植物。花姿がハス(蓮華)に、葉がサラシナショウマに似ることから名前が付いた。ガクは薄紫色で平らに咲き、本物の花卉は抱えるように咲く。1属1種。

⑩ ウンカリナ・グランディディエリ
ゴマ科。マダガスカル島西部原産。葉を擦ると微かにゴマの香りがする。現地住民の間では「シャンプーの木」と呼ばれており、葉を水に浸すと分泌される粘液がシャンプーとして利用され、育毛・増毛の効果もあるとされている。

⑨ センニチコウ
ヒユ科。熱帯アメリカ原産。日本には江戸時代に渡来。「千日紅」と書き、その名は花の色が長期間あせない性質に由来。京都の秋祭りの先陣を切って行われる「ずいき祭」では、野菜や穀物と一緒にみこしの装飾の一つとして欠かせない。

① ジュラシック・ツリー
ナンヨウスギ科。1994年にオーストラリアのウォレマイ国立公園内の溪谷で発見。世界的には英名の「Wollemi Pine(ウォレマイ・パイン)」と呼ばれる。最も古い化石は約2億年前のもので、現存する最古の種子植物とされる。

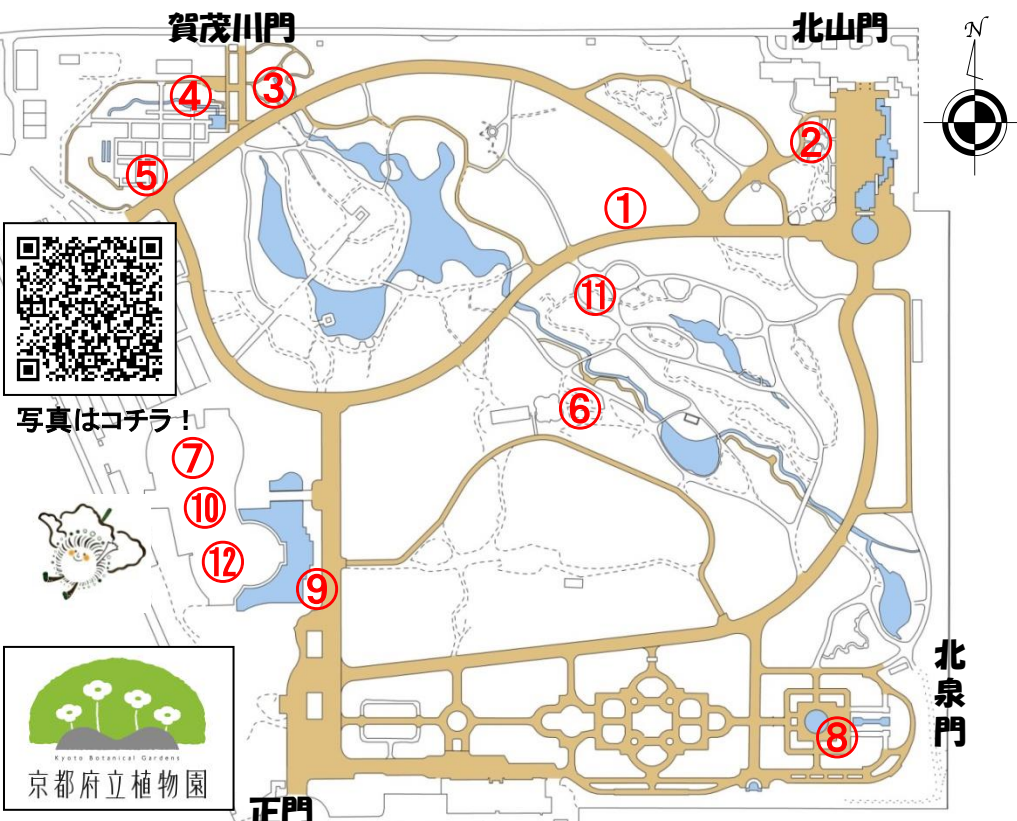
② ルリタマアザミ
キク科。東ヨーロッパおよび西アジアに分布。アザミのように葉にトゲがあり、瑠璃色で球形の花を咲かせることから名前が付いた。属名の「エキノプス」は、つぼみがトゲトゲしていて「ハリネズミに似ている」という意味のギリシャ語に由来。

③ アザレアツバキ
ツバキ科。中国広東省原産。ツバキ属の中で珍しい「夏咲き」で7月頃から咲き始める。夏に咲く「ナツツバキ」は有名で、同じツバキ科ではあるが、ナツツバキ属に分類される。一重咲きで鮮やかな紅色の花弁が特徴。

④ チュウキンレン
バショウ科。中国やベトナムなどに分布。漢字では「地湧金蓮」と書き、外観が地面から金色のハスの花が湧き出したように見えることが名前の由来。また、見た目がバナナにも似ていることから、英名は「チャイニーズ・イエロー・バナナ」。

⑤ ヒオウギ
アヤメ科。本州・四国・九州の山野の草地や海岸に自生。扇型に開いた葉が、宮廷人の持つ檜扇(ひおうぎ)に似ていることが和名の由来。京都では、古くからこの花が悪霊退散に用いられたことから、祇園祭には「祭花」として欠かせない。

⑥ ムクゲ
アオイ科。中国やインドなどに自生。日本へは平安時代初期には渡来していたと考えられる。韓国では国花でもあり「無窮花(ムゲンファ)」と呼ばれている。花の少ない夏の間中咲いているように見えるが、多くの花は一日で散る一日花。



⑧ ムラサキパレンギク
キク科。北アメリカ原産。花びらがやや下向きに反って咲く姿が「紫色の馬簾(ばれん)のような菊」に似ることが名の由来。馬簾とは、江戸時代の町火消しが消火活動の目印などに用いていた纏(まとい)にのれんのように付いている部分。

⑦ アリストロキア・トリカウダ
ウマノスズクサ科。メキシコ原産。花のように見える部分はガクで、3方に裂けて、その先端部が尾状に約10cm垂れ下がるのが特徴。そのことから、種小名のトリカウダは、ギリシャ語で「3つの尾状のもの」という意味から付けられた。